

令和6年度横浜市立保育所の民間移管にかかる法人選考委員会（第2回）
議 事 要 旨

【日 時】 令和4年5月31日（火）19:00～20:30

【会 場】 横浜市庁舎 18階 みなと6・7

【出席者】 計 17名

（内訳）

選考委員 8名（佐藤委員長、栗原副委員長、坂本副委員長、上田委員、
久保委員、丸山委員、三ツ村委員、渡邊委員）

事務局 7名（保育・教育部長、保育・教育支援課長、
担当係長（3名）、担当係員（2名））

傍聴者 2名

【議 題】

- 1 選考委員による園訪問の状況について
- 2 法人選考方法及び法人選考基準について

●議題1 選考委員による園訪問の状況について

佐藤委員長 委員が2園を分担して訪問し、保護者・職員から直接ご意見を伺いました。
委員会での共有を図るため、園ごとに訪問状況の共有と議論を行います。

1 釜利谷保育園【訪問委員：栗原副委員長、上田委員、久保委員】

＜事務局から園訪問の状況について報告＞

栗原副委員長 釜利谷保育園の第一印象は駅から近いということでした。園舎はログハウ
スのような造りで、温かみを感じました。

職員からは、保護者や地域の方からのクレームは少ないというお話があ
り、温かい雰囲気のある地域ということが感じられました。アットホームな園の
ため、地域を愛する気持ちのある法人を選定することができれば、スムーズ
な移管につながるのではないかと思います。

上田委員 職員との意見交換では、どの職員も園の良さを語ることができている、職
員同士の連携に保育の質の高さを感じました。保護者からも職員の質の高さ
についてお話しいただき、質の高い保育・職員を求めていることも感しまし
た。保育の内容については、次の日に遊びの続きができるように遊びを残し
ておくことや、遊びの連続性を大事にしているとお話がありました。

保護者とお話しした時、移管することに不安を感じている保護者もいたの
で、丁寧に対応していく必要があると思いました。

久保委員 木の温もりを感じる素敵な園でした。園舎のつくりや園庭のあり方等、様々なことが良く循環していました。保育では、遊びを大事にしている、一人一人の育ちに非常に丁寧に沿っていると感じました。「遊びから主体性や生きる力を育む」という保育がしっかりみえる環境づくりがされていて、園舎には空き箱や紙等の遊びの材料が揃えられていました。

園周辺には川、海、山、公園、動物園等があり、魅力的な環境です。

園庭では野菜を育てていたのですが「何の野菜を育てたいか」を子どもたちがクラスごとに話し合うことから始めるということを知り、温かみを感じました。

職員のチームワークの良さについて伺ったところ、会議は1日2回行い、全職員に情報共有ができるようにしているということでした。園内を見学したときに、玄関にその日の保育の記録が掲示されており、その日のうちに保護者が見られるようにしていることに驚きました。チームワークが良いからこそできることだと思いました。

保護者からは、職員数にゆとりがあることが良い園運営に繋がっているのではないかと、というお話がありました。十分な職員数の確保ができる法人を選考できると良いと思いました。

最後に、園の玄関ですが、木製の格子の扉のため、冬はとても寒いということも伺い、取り替えたほうが良いのではないかと感じました。

坂本副委員長 配慮が必要なお子さんがいるということでしたが、詳しく教えてください。

上田委員 園全体では、配慮が必要なお子さんが数名在籍しているとのことでした。保護者との意見交換に参加していただいたご家庭は、現在丁寧に保育してくれているので移管してどう変わってしまうか不安、と話していました。

2 上大岡東保育園【訪問委員：佐藤委員長、丸山委員、渡邊委員】

<事務局から園訪問の状況について報告>

渡邊委員 色水遊びの発表からわかるように、子ども主体の保育がしっかりと実践されていました。コロナ禍でも行事を工夫して実施しており、職員のチームワークが素晴らしいと感じました。

保護者との意見交換では、“横浜の保育”が保護者の皆さんにも伝わっていることが感じ取れました。職員だけではなく保護者からも「保育の中で何を大事にすべきか」を熱く語ってくださったことが印象的でした。保育園をとて信頼していることが伺え、保護者の皆さんが納得できる法人を選定しなければいけないと感じました。

丸山委員 まず、園と保護者の繋がりが強いことを感じました。職員や保護者のお話

を聞いていると、それぞれ同じ想いをもちながら子育てをしていることが伺え、素晴らしいと思いました。信頼関係のある保育園だからこそ法人選定が難しいと思いました。

佐藤委員長 園の紹介だけではなく、色水遊びの発表をしていただいたことが印象的でした。その発表からは、子どもたちのやりたいことや想いが“認められている”ことを強く感じました。それが保護者からの信頼や、子どもたちの自己肯定感に繋がっているのだと思いました。また、職員同士のコラボレーションが素晴らしく、調理員が子どもたちの中に入り、歌をつくって歌う等食育を超えた交流を行っていました。園全体で保育をしており、職員が自身の良さを生かしていることが印象的でした。

保護者の方のお話からは、丁寧に保護者の不安に寄り添うことで信頼に繋がっていることが分かりました。

久保委員 園舎について、修繕が必要だと思われる箇所はありましたか？

佐藤委員長 大きく修繕が必要な箇所はないかと思いますが、園舎の2階にある集会室は1階から直接上がることができず、外からしか入れなくなっています。一時保育や行事にも使えると思うので、うまく活用してほしいと思います。

●議題2 法人選考方法及び法人選考基準について

【1 一次選考の配点変更について】

<事務局から別添資料に基づき説明>

佐藤委員長 この議題については、移管対象園が減ることによる配点の変更ですので、事務局提案のとおりでよろしいでしょうか。

委員 (了承)

【2. 一次選考の監査の配点について】

<事務局から別添資料に基づき説明>

三ツ村委員 特別指導監査は、自治体によって基準に違いがあるので、欠格事由とするのは良くないと思います。私は、一次選考では施設監査、法人監査ともに得点を0点とし、二次選考の面接にて法人にヒアリングをするのが良いのではないかと思いました。また「提出書類上では過去3年間分しかわからない」という意見もありました。確かに、過去3年間分では短い印象があるので、できれば、過去5年分くらいは遡って確認したほうが望ましいと思います。

栗原副委員 三ツ村委員の意見に賛成です。二次選考の面接の場で理事長や会計担当者にヒアリングすることで、特別指導監査の詳細な内容や法人の体質は分かると思います。

佐藤委員長 過去3年間分を提出させているのは何か理由があるのでしょうか。特別指

導監査が実施された法人のみ過去5年間分を提出させるわけにはいきませんので、その場合は一律で過去5年間分を用意してもらう必要があると思います。

事務局 場合によりますが、本市では実地監査を2年に1回受ける必要があります。こうした頻度を考慮して、過去3年間分を用意するようお願いしています。

三ツ村委員 応募書類等、他に影響するようであれば、過去3年間分のままで良いと思います。

佐藤委員長 それでは、一次選考では施設監査、法人監査ともに得点を0点とし、二次選考の面接にて法人にヒアリングをする、ということによろしいでしょうか。

委員 (了承)

【3. 二次選考の実地調査における0歳児保育未実施園での評価取り扱いについて】 ＜事務局より別添資料に基づき説明＞

佐藤委員長 実地調査でのヒアリングは、人によって評価が変わる恐れがあるため、公平性の観点からすると、0点とするのが良いのではないかと思います。

久保委員 応募様式の実地調査希望施設を記載する欄に「0歳児保育実施園が望ましいこと」や「0歳児保育未実施園を実地調査対象園とした場合、評価されないこと」を注意書きとして記載しておくのはどうでしょうか。それでも0歳児保育未実施園を実地調査対象園として挙げた場合は0点とするが良いと思います。

佐藤委員長 それでは、応募法人において0歳児実施園があるにもかかわらず、0歳児保育未実施園を実地調査対象園として申請した場合は0点としたいと思います。

応募法人において0歳児保育が未実施であるにもかかわらず、移管希望園に0歳児保育実施園を選択した場合について、ご意見はありますか。

上田委員 0歳児保育を全く実施していない法人と0歳児保育を実施している法人では大きな差があると思うので、得点として差をつけるためにも減点するのが良いかと思います。

渡辺委員 上大岡東保育園を訪問した際に、0歳児へのきめ細かい保育についてお聞きし、0歳児保育を実施したことがない法人に0歳児の保育ができるか不安に思いました。評価ができないため0点とすることは良いと思いますが「その他評価ポイント」の食育の欄等で減点するのはどうでしょうか。ただ、減点する場合、0歳児保育を実施していない法人が0歳児保育実施園に手を上げにくくなるということは懸念されます。

佐藤委員長 今までの流れとして、多くの法人の中から優良な法人を選考できるよう、様々な方法で門戸を広げてきました。そのような経緯の中で減点方式を採用

するのは流れに反しているのではないかと思います。厳密には難しいかもしれませんが、1歳児の保育の内容から0歳児の保育を類推することや、ヒアリングから0歳児保育に対しての考えを知ることはできると思うので、0点とすることが妥当かと思えます。

久保委員　　これまでの法人選考の中で「0歳児保育を実施していないが、人材が豊富な保育園」も見てきたので、0歳児保育未実施という事実をもって減点するのはもったいないと感じます。0歳児保育を実施していないのにもかかわらず、移管園に0歳児実施園を希望しているということはそれなりに対策を考えていると思うので、得点は0点とし、面接でヒアリングして法人の考えを伺うのが良いと思えます。

事務局　　別添資料4ページの表に、市内で0歳児保育を実施していない園の数を参考までに記載しています。新規園を整備する際には、ニーズに合わせて0歳児枠を縮小するようお願いをしていますが、横浜市の要請に応じて0歳児保育を実施していない法人が選考で減点されてしまうことは、横浜市からのお願いと矛盾する恐れもあります。

佐藤委員長　　それでは、このような現状も勘案して、点数については減点等はせず0点としたいと思えますが、いかがでしょうか。

委員　　(了承)

【4. 二次選考対象法人の変更について】

<事務局より別添資料に基づき説明>

佐藤委員長　　二次選考対象法人数については、第1回委員会で議論されたとおり、より優良な法人から選考するために各園3法人を確保し合計6法人としたいと思えますが、いかがでしょうか。

委員　　(了承)

佐藤委員長　　それでは、令和6年度移管の選考方法及び選考基準については、これで確定いたしましたので、第2回法人選考委員会を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

事務局：こども青少年局 保育・教育支援課
民間移管担当 小田、高橋、山際

TEL：045-671-2407 FAX：045-663-1925